

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Screen Time and Developmental Performance Among Children at 1-3 Years of Age in the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 1-3歳の子どものテレビ・DVDの視聴時間と発達の関連

ユニットセンター(UC)等名: 千葉ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: JAMA Pediatrics

年: 2023 DOI: 10.1001/jamapediatrics.2023.3643

筆頭著者名: 山本 緑

所属 UC 名: 千葉ユニットセンター

目的:

この研究では、近年開発された手法を用いて、発達とメディア視聴時間の個人差を調整した上で、幼児期(1歳、2歳、3歳)のテレビ・DVD(メディア)の視聴時間と発達との関係について、メディア視聴時間が長いから発達が遅くなるのか、発達が遅い子はメディア視聴時間が長くなりやすいのかを調べました。

方法:

自閉スペクトラム症と診断されていない57980人の子どものデータを使用しました。発達は、日本語版ASQ-3という質問票を用いて、5つの領域(コミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人と社会)のスコアを算出しました(低い点数は発達が遅いことを示します)。1歳、2歳のメディア視聴時間の1年後の発達スコアへの影響と、逆方向(1歳、2歳の発達スコアと1年後のメディア視聴時間)の影響を調べました。

結果:

メディア視聴時間が長いと1年後の発達スコア(5領域全体)が低くなる影響を1歳から2歳、2歳から3歳で認めました。領域ごとに見ると、1歳のメディア視聴時間は2歳のコミュニケーション領域に、2歳のメディア視聴時間は3歳の粗大運動、微細運動、個人-社会の3領域に影響を認めました。逆に、1歳時、2歳のコミュニケーション領域の発達スコアが低いと、1年後のメディア視聴時間が長くなる影響を認めました。発達スコアを高くする育児環境要因として、年上の兄弟、保育園の利用、子どもへの読み聞かせが関係していました。

考察(研究の限界を含める):

この研究から、1歳時、2歳時のメディア視聴時間が発達に関連することがわかりました。最近ではスマートフォンやタブレットを見る子どもも増えていますが、この研究では、テレビとDVD視聴時間のみを検討しており、スマートフォンなどの影響はわかりません。また、テレビやDVDで見る番組などの内容によって発達への影響に何らかの違いがあるかということもわかっていません。親子で絵本を読む、保育園や家庭で他の子どもや兄弟と遊ぶ、親子で外出するなど、メディア視聴時間の減少や発達スコアの高さと関連があることがわかりました。家庭でメディア視聴が長くならないような工夫や社会との交流を支援するような取り組みが必要と考えられます。

結論:

1歳時、2歳時のテレビなどの視聴時間が長いと、発達の遅れにつながる可能性が示されました。